

【速報】2000 ITUトライアスロン世界選手権パース大会

(2000年シドニーオリンピック大会出場資格ポイント対象大会)

<大会概要>

開催日：2000年4月30日(日) 開催場所：オーストラリア・パース
 競技距離：51.5 km (スイム1.5 km, バイク40 km, ラン10 km)
 ITU(国際トライアスロン連合)公認

【女子エリートトップ10および日本人選手】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	ニコール・ハケット	1時間54分43秒	オーストラリア
2	キャロル・モンゴメリー	1時間54分50秒	カナダ
3	ミケリー・ジョーンズ	1時間55分25秒	オーストラリア
4	バーバラ・リンクイスト	1時間55分41秒	アメリカ合衆国
5	アニア・ディトメル	1時間55分46秒	ドイツ
6	シーラ・テルオミナ	1時間55分50秒	アメリカ合衆国
7	エマ・カーニ	1時間55分56秒	オーストラリア
8	ブリジット・マクマホン	1時間55分58秒	スイス
9	平尾 明子	1時間56分01秒	NTT東日本・NTT西日本
10	シリ・リンドリー	1時間56分02秒	アメリカ合衆国
13	細谷はるな	1時間56分12秒	ニデック
14	庭田 清美	1時間56分14秒	シャクリ・FILA・GT・グリーンソワ-
19	中西真知子	1時間56分52秒	チームNTT東日本
26	小梅川雪絵	1時間57分10秒	チームテイケイ
リタイ	大河原浩美		アラコ

【男子エリートトップ10および日本人選手】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	オリビエ・マルソー	1時間51分41秒	フランス
2	ピーター・ロバートソン	1時間51分55秒	オーストラリア
3	クレイグ・ウォルトン	1時間51分49秒	オーストラリア
4	カール・プラスコ	1時間52分09秒	フランス
5	ハミッシュ・カーター	1時間52分14秒	ニュージーランド
6	エリック・ファン・デル・リンデン	1時間52分17秒	オランダ
7	ハンター・ケンパー	1時間52分18秒	アメリカ合衆国
8	ステファン・ピニエ	1時間52分19秒	フランス
9	デニス・ルーズ	1時間52分26秒	オランダ
10	グレッグ・ベネット	1時間52分27秒	オーストラリア
31	西内 洋行	1時間54分09秒	チームテイケイ
33	福井 英郎	1時間54分35秒	シャクリ・FILA・GT・グリーンソワ-
50	小原 工	1時間59分39秒	チームテイケイ
リタイ	竹内 鉄平		アラコ
リタイ	鈴木 隼人		東京都連合

【女子ジュニアエリートトップ5および日本人選手】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	アンリーズ・ハード	2時間10分06秒	イギリス
2	メラニー・ミッチェル	2時間11分28秒	オーストラリア
3	ニコラ・スプリヒ	2時間12分19秒	スイス
4	ジョジー・ローン	2時間12分53秒	オーストラリア
5	ベアトリス・ランツァ	2時間13分03秒	イタリア
10	大松沙央里	2時間15分56秒	日本女子体育大学
18	中川 絵理	2時間19分05秒	愛知県協会

【男子ジュニアエリートトップ5および日本人選手】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	フレデリック・ブローブル	1時間57分32秒	フランス
2	レオニド・イワノフ	1時間57分57秒	ロシア
3	ディミトリ・スミルノフ	1時間58分30秒	カザフスタン
4	デビッド・クラーク	1時間58分46秒	オーストラリア
5	ライアン・ジョンソン	1時間59分03秒	オーストラリア
13	益田 大貴	2時間00分33秒	NITTOH TEAM KEN'S A&A
29	宮田 俊介	2時間04分49秒	亜細亜大学

【女子エイジグループ日本人選手：30 - 34歳の部】

順位	氏名	記録	登録/所属
29	脇 真由美	2時間25分00秒	神奈川県連合

【男子エイジグループ日本人選手：25 - 29歳の部】

順位	氏名	記録	登録/所属
51	脇 幸一	2時間13分55秒	神奈川県連合

【大会概要】

女子はニコール・ハケットが、男子はオリビエ・マルソーが初優勝

4月30日(日)、オーストラリアのウエストオーストラリア州の州都パース市特設コースで、2000年第12回ITUトライアスロン世界選手権が開催された。この大会は、2000年シドニー・オリンピックの代表権を争ううえで重要な意味を持つ、ITUワールドポイントが獲得できる最後の大会。世界各国から142名の選手が参加した。

エリート女子は、1997・1998年ジュニア世界チャンピオンのニコール・ハケット(オーストラリア)がスイム・バイクとレースをリード。ランでも逃げ切って、世界選手権初優勝を飾った。

日本選手は、平尾明子(NTT東日本・NTT西日本)が得意のランで第2集団から追い上げ、9位と日本人初の世界選トップ10入りを果たした。

エリート男子は、オリビエ・マルソー(フランス)がスイムから終始先頭集団に位置し、後続の追い上げを振り切って、初優勝を飾った。

日本選手は、西内洋行(チームテイケイ)の31位が最高位だった。

同日午前に行われたジュニア女子は、アンリーズ・ハード(イギリス)が昨年に引き続き2連覇。日本人選手は、大松沙央里(日本女子体育大学)が、ラン追い上げ、10位に入った。中川絵理(愛知県協会)はバイク2週目の下りで落車に巻き込まれたものの、18位と健闘した。ジュニア男子では、フレデリック・ブローブル(フランス)が優勝し、日本選手は益田大貴(NITTOH TEAM KEN'S A&A)が13位に入ったのが最高だった。

平尾明子が日本人初の世界選トップ10入り！

午後1時15分スタートの女子は、ウェットスーツ着用可で行われた。シーラ・テルオミナ(アメリカ)が18分52秒で水から上がると、ニコール・ハケット(オーストラリア)、バーバラ・リンクイスト(アメリカ合衆国)が1秒差で追う展開。日本人選手では小梅川雪絵(チームテイケイ)がスイム10位の19分16秒で第2グループにつける。第3グループに、平尾明子、庭田清美(シャクリー・FILA・GT・グリーントワー)、中西真知子(チームNTT東日本)、大河原浩美(アラコ)が入るが、先週のアジア選手権蒲郡大会で優勝を果たした、細谷はるな(ニデック)は第4集団と出遅れる。

バイクでは、テルオミナ、リンクイスト、ハケットが先行し、第2～4集団が形成されてあとを追う展開となった。バイク中盤で第3・4集団が第2集団に追いつき、30名以上に膨れ上がるが、トップグループと1分30秒差をつけられ、ラン競技へと移った。

ランに入ると、ハケットが他の2人を早々に引き離し、そのまま逃げ切って1時間54分34秒でフィニッシュ、初優勝を遂げた。2位には手術から今期復帰したキャロル・モンゴメリー(カナダ)が6秒差まで追い上げ、3位にはミケリー・ジョーンズ(オーストラリア)に入った。

日本選手は、スイムで第2集団に小梅川雪絵(チームテイケイ)、続いて、平尾明子(NTT東日本・NTT西日本)、庭田清美(シャクリー・FILA・GT・グリーントワー)、中西真知子(チームNTT東日本)が第3集団でトランジションに入る。先週アジア選手権蒲郡大会で優勝を飾った細谷はるな(ニデック)は第4集団と出遅れてしまう。バイク中盤で第2集団が後続に吸収される一方、先頭集団はバイクフィニッシュ時に第2集団に1分30秒の差をつける。20名の後続集団からランでモンゴメリーとジョーンズが飛び出すと、平尾・庭田・細谷がこれを追走する。結局、平尾が日本人世界選手権最高位となる9位でフィニッシュした。「先週の蒲郡大会でスイムを失敗していたので、スイムスタート前はととても緊張した。レースの時は後ろを振り返らず前方に集中して走りつづけた」とコメントした。

その他のおもな日本選手は、細谷13位、庭田14位、中西19位、小梅川26位と、という結果だった。

マルソーがフランス人初の世界選手権獲得

午後3時45分スタートの男子は、ウエットスーツ着用可で行われた。スイムスペシャリストのリッキー・ヨルゲンセン（デンマーク）がトップでスイムフィニッシュすると、ローラン・ジャンセルマ（フランス）、クレイグ・ウォルトン（オーストラリア）、ハミッシュ・カーター（ニュージーランド）を含む、8名が続いてフィニッシュして後続を引き離しにかかる。小原 工（チームテイケイ）はスイムを第2集団、西内・福井英郎（シャクリー・FILA・GT・グリーンタワー）は第3集団でフィニッシュ。竹内鉄平（アラコ）・鈴木隼人（東京都連合）は出遅れて、第4集団でフィニッシュした。バイクでは第2集団に次々と後続が追いついて40名を超える大集団となった一方、先頭集団は途中5名に減りながらも、第2集団に1分30秒の差を保ってバイクをフィニッシュする。

ランでは、ワールドランキング2位のカーターと、オリビエ・マルソー（フランス）がサイド・バイ・サイドで先頭を争う。結局マルソーは中盤カーターを引き離すとそのままフィニッシュラインを駆け抜けた。2位には2週間前のワールドカップシドニー大会を制したピーター・ロバートソン（オーストラリア）が第2集団より追い上げ、3位にはラン中盤より盛り返したウォルトンが入った。

フランス人のマルソーは昨年末よりトレーニング拠点を強豪ひしめくオーストラリアに構え、数々のレースを転戦した成果が現れた格好となった。

日本選手は、小原・福井・西内が第2集団で終え、好位置につけたが、ランで伸び悩み、31位に西内が入ったのが最高だった。レース後西内は「世界選に向けた準備はやるだけのことすべてやった。結果については悔いはない。もしオリンピック代表に選ばれたら全力を尽くしたい」とコメントを残した。

その他のおもな日本選手は、33位福井、50位に小原がフィニッシュした。竹内と鈴木はラン周回で先頭にラップされ、完走できなかった。

- * 日本選手団オフィシャルスポンサー：NTT東日本・NTT西日本
- * 日本選手団オフィシャルスポンサー：日清製粉、森永製菓健康事業部
- * 日本選手団オフィシャルウェア：デサント(アリーナ)

社団法人 日本トライアスロン連合(JTU)

東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F

Tel. 03-5469-5401(代)

Fax. 03-5469-5403

